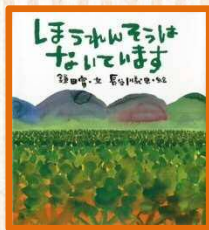


大好き！絵本

初瀬 恵美



『ほうれんそうは
ないです』
文：鎌田 實
絵：長谷川 義史
出版社：ポプラ社

河内の山に、美しいみかんのオレンジ色が輝き、徐々に収穫されていく、そんな実りの秋を迎えましたね。保育園の柿も色づき、畑のさつまいもももうすぐ収穫です。毎年変わらずにあるような、この光景も、一生懸命手を加え、作ってくださる方がいらっしゃることに、そして、天の恵みがあるからこそだと思います。

今月は、実りの秋を迎えた今、少し忘れかけている福島のことを題材にした絵本を紹介したいと思います。

文を書かれたのは、医師でもある鎌田實さん。1986年チェルノブイリ原子力発電所事故の患者さんの治療にも長年貢献をされている方です。そして、2011年3月11日の東日本大震災以降は、被災地支援もずっと続けられています。その方が目に見えない放射線の恐ろしさを「ほうれんそう」など、食べ物の思いを通して書いた絵本が今月の絵本『ほうれんそうはないです』です。

絵は『いいから いいから』などで子どもたちにおなじみの長谷川義史さんです。表紙ののんびりとしたあたたかな田舎の風景を思わせる絵。それとは対照的な『ほうれんそうはないです』というタイトル。私は内容を知らなくて、そのアンバランスな印象に思わず手をのびた絵本でした。「ほうれんそうはなぜないているんだろう？」そんな疑問から読み始めました。「ぼくは ほうれんそうです ゆでておひたしに パターといためて おしょうゆたたり。 おいしいよ。」と甘くてやわらかそうなほうれんそう。ところがページをめくると突然水墨画のようなほうれんそうに変わっています。そして「でも、ぼくは 食べてもらえせん。」と一文。米も牛（おちち）もカレー（魚）も……。一体全体何事だろうと思います。「好き嫌いをいう子どもむけ？」「それとも……？」など背景をさぐりながら読んでいきました。原因は、予想外の地震による原子力発電所の事故。そこからの絵本の展開の重み、「地球とすべてのイキモノと子どもたちを守りたい」という鎌田さんと長谷川さんの強い思い……。とてもいろいろなメッセージが詰まった絵本でした。

鎌田さんは「ぼく、ずっと福島を応援しているから、今でも福島の野菜や果物を採って…あの～、ぼくと女房は食べ続けてるんですけども、う～ん…それでもこの3月、2011年の3月の末に起きたホウレンソウの気持ちは一生忘れないてはいけないんじゃないか。二度とこういうことを起こしてはいけないんじゃないかなあと思って、『ほうれんそうはないです』ってこの絵本を書いたんですよね」と語っていらっしゃいました。（文化放送「大竹まことゴールデンラジオ」大竹メインディッシュ②（鎌田實）日時：平成26年4月7日）

震災から3年半。ニュースでも被災地のことが報道されることが少なくなりました。しかし、今もまだ、出荷規制が続く品目があります。地震は天災、しかし、放射能汚染は……。

実り豊かな秋に、もう一度立ち止まっていろいろ考えさせられる絵本です。

